

小学6年 社会

<県基礎学力調査の結果から>

(1) 全体 (県との比較, 経年比較から)

「地域学習」, 「産業と国土」いずれの領域においても課題である。特に, 昨年同様に県の市町数, 県の地形の位置関係, 隣接する県, 縮尺と実際の距離, 緯度と経度等, 知識・理解の定着に不十分さが見られる。日々の学習の中での繰り返しの指導や目的地を調べるだけでなく, 地図を多面的に活用する習慣を付けていく指導が必要である。

(2) 良好といえる点 (◇は, 昨年度, 今年度ともに良好な点)

- ・主な地図記号を理解することができる。
- ・食の安全性について資料から読み取ることができる。

(3) 課題点及び指導のポイント (◆は, 昨年度, 今年度ともに課題点)

①石川県の市町の数を理解している。(◆)

○問題1 (5)

(5) 石川県には現在, 市の数は10ありますが, 町の数はいくつありますか。

あてはまる数を次のア~エから1つ選び, その記号を□に書きましょう。

ア 6 イ 9 ウ 12 エ 19

◆分析

選択式(4択)であるが, 知識が確実でないためか, 正答率が低い。

指導改善のポイント

- ・中学年で学習しただけでは, 確実な定着は難しい。日々の学習で地域素材を取り上げたり, 地域に目を向けたりする活動を取り入れながら, 繰り返し指導していく必要がある。

(例 石川県の白地図を利用し児童が書き込んだり, 県内の市町にちなんだ問題を出し合ったり, 興味・関心を高めながらの活動が有効である)

②緯度, 経度の基礎的な意味を理解することができる。(◆)

○問題2 (1)③

2 太郎さんは, お父さんと地図帳を見ながら日本とそのまわりの様子について話しています。地図帳12ページと74~76ページを参考にして, あとの問いに答えましょう。



お父さん

日本は, 北海道・本州・(①)・九州の4つの島とそのまわりの小さな島々から成り立っているんだよ。

日本の領土の範囲を知っているかい。日本の北のはしは択捉島で, 南のはしは(②)なんだ。また, 東のはしは南鳥島で, 西のはしは与那国島だよ。

このように, 北のはしや南のはしを確認するときは緯度を, また, 東のはしや西のはしを確認するときは(③)をもとに見つければいいんだよ。

◆分析

「緯度, 経度」の基本的な意味が理解できていないため, 解答することができない児童の割合が高かった。

指導改善のポイント

- ・地図上で目的地を探し出すだけでなく、その地点の緯度、経度を確認する学習を取り入れる。
- ・地球儀を活用し、緯度、経度の意味や位置関係を表すことのできるよさを理解する。

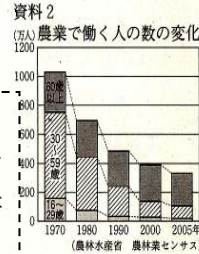
③日本の食料生産が抱える問題について自分なりの考えを持つことができる。

問題3(3)②

分析

いくつかの資料を活用したり、関連させたりしながら根拠を持って自分の考えをまとめ表現する学習があまり行われていないのではないか。

(3) 太郎さんは、資料2を使って、次のように意見をつけ加えました。



資料2を見てください。農業で働く人が年々減ってきています。2005年の働く人の数は、1970年の働く人の数の約(⑤)分の1になっています。特に、若い人の数が減っていることが分かります。



① ⑤にあてはまる数字を□に書きましょう。

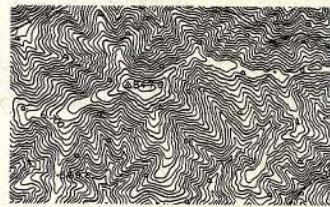
② 資料2と太郎さんの意見から、日本の食料生産について考えられる問題点を、□に書きましょう。

指導改善のポイント

- ・資料を活用し、根拠をもとに自分の考えを出し合ったり、様々な考えをまとめるための視点を設定したりする学習を意図的・計画的に取り入れていく。
- ・資料の与え方に興味を持たせたり、児童の意識と異なる資料を準備したりして、驚きや疑問を生み出すような場を設定していく。

④等高線の意味を理解している。(3) 下の地図は、等高線で表した地図です。等高線について正しく説明した文を次のア～エから1つ選び、その記号を□に書きましょう。

問題5(3)



- ア 「土地の気温が同じ」ということを表している。
- イ 年輪を表している。
- ウ 「海面からの高さが同じ」ということを表している。
- エ 「そこで育つ植物が同じ」ということを表している。

分析

等高線の意味を理解していない児童が多い。地図学習の不足が考えられる。

指導改善のポイント

- ・等高線の学習では、立体模型づくりやぬり絵等作業的な学習を取り入れたりと、等高線の組み合わせや出入りによってできる地形の特徴を調べたりする体験活動的な学習を設定する。
- ・地図の利用が習慣化されるよう、教師が意識的に授業の中で利用する場面を設けていく。

<今後の指導にあたって>

- 地図帳を活用する際、さまざまな視点(等高線、県内の地形、市町、交通網、隣接都道府県、縮尺、八方位、緯度と経度等)を与えて確かめ合うなど、日々の授業において幅広く地図を活用する習慣をつける。
- 各種の資料を活用し、自分なりの考えを持ち、表現し、深め合う活動の機会を意図的・計画的に取り入れ、その充実を図る。
- 知識・理解の定着を図るために、児童が社会的事象にふれる機会を意図的に設定する。